

令和6年度 第1回 函館市（仮称）総合ミュージアムの整備にあたっての基本的な考え方 （たたき台）への意見に関する検討会議 会議録	
開催日時	令和6年5月15日（水）18時30分～20時10分
開催場所	函館市役所本庁舎8階大会議室
次第	1 開 会 2 挨拶 3 議 題 （1） 函館市（仮称）総合ミュージアムの整備にあたっての基本的な考え方（たたき台）に対する意見について 4 その他 5 閉 会
出席委員	（出席委員 19名） 川嶋委員，黒島委員，小山委員，酒井委員，佐竹委員，佐藤（安）委員，渡邊委員，駒野委員，坂野委員，高間委員，根本委員，奥平委員，村上委員，鈴木委員，佐藤（秀）委員，山田委員，谷口委員，林原委員，太田委員 （欠席委員：7名） 若山委員，田原委員，田上委員，中村委員，木村委員，池田委員，北山委員
庶務 （事務局）	函館市教育委員会生涯学習部 土生部長，宮田部次長， 加藤歴史文化資源保存活用担当課長，熊谷市立函館博物館長， 長濱生涯学習文化課長，木村文化財課長 歴史文化資源保存活用担当 橋本主査 市立函館博物館 三浦主査，大矢主査
その他	報道関係者：1名 傍聴者：1名

1 開 会

【加藤歴史文化資源保存活用担当課長】

それでは定刻を過ぎましたので、ただいまより令和6年度第1回函館市（仮称）総合ミュージアムの整備にあたっての基本的な考え方（たたき台）への意見に関する検討会議を開催いたします。

なお、本会議の議事録を作成いたしますので、録音をいたしますことをご了承願います。

本日の進行を務めさせていただきます函館市教育委員会生涯学習部歴史文化資源保存活用担当課長の加藤でございます。どうぞよろしく願いいたします。

配付資料の確認をさせていただきます。

お手元に「検討会議 次第」、「座席表」でございます。不足や落丁等ございませんでしょうか。

そして、委員の皆様にご持参をお願いさせていただいております本会議の協議、検討の基礎資料となります「(仮称)総合ミュージアムの整備にあたっての基本的な考え方(たたき台)」、「(仮称)総合ミュージアム構想にかかる提言」、「(仮称)総合ミュージアムの整備にあたっての基本的な考え方(たたき台)に対するパブリックコメントおよび各団体からの意見(最終)」,そして、市内中学生・高校生を対象とした「博物館についてのアンケート結果報告書」,この4点でございます。

本日お持ちでない方がいらっしゃいましたら、担当者の方にお声がけいただけましたらお持ちしますのでよろしく願いいたします。

お手元でございますでしょうか。

2 挨拶

【加藤歴史文化資源保存活用担当課長】

それでは開会に先立ちまして、団体推薦委員に交代がございましたので、ご紹介をさせていただきます。

公益財団法人函館市文化・スポーツ振興財団文化担当部長・市民会館館長を兼務されております佐竹卓様でございます。佐竹委員よりご就任のご挨拶をお願いいたします。

【佐竹委員】

皆様、こんばんは。4月に函館市民会館に着任しました佐竹と申します。どうぞよろしく願いいたします。

【加藤歴史文化資源保存活用担当課長】

佐竹委員、ありがとうございます。

それでは次に検討会議の庶務を務めます函館市教育委員会生涯学習部の管理職にも異動がございましたことからご紹介させていただきます。

生涯学習部長の土生明弘でございます。生涯学習部長より着任のご挨拶を申し上げます。

【土生生涯学習部長】

皆様、どうもお晩でございます。本日はお忙しい中、本年度第1回目の検討会議にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

私は、改めまして今年4月1日から教育委員会生涯学習部の方にまいりました土生でございます。どうぞよろしく願いいたします。

この検討会議につきましては、昨年の12月に設置をされ、これまで3回の会議が開催され、中でも2回目の現地の視察を踏まえて、前回の3回目の会からは早速、各委員の皆様からそれぞれのお立場あるいは専門的な見地からの貴重なご意見をいただいているというふうに伺っております。

この会議の設置目的でございます(仮称)総合ミュージアムの基本的な考え方、市民的コンセンサスができるだけ得られた中で成案化をしていくということに向けまして、

今後とも引き続き、皆様方には様々な観点・視点からご協力・ご検討いただければと思っております。

川嶋座長をはじめ、委員の皆様方、ちょっとご苦勞をおかけする部分もあるかもしれませんが、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

【加藤歴史文化資源保存活用担当課長】

次に、今回庶務の担当者にも異動がございました。生涯学習部歴史文化資源保存活用担当主査の橋本透でございます。

【橋本歴史文化資源保存活用担当主査】

橋本です。よろしくお願いいたします。

3 議題 (1) 函館市(仮称)総合ミュージアムの整備にあたっての基本的な考え方(たき台)に対する意見

【加藤歴史文化資源保存活用担当課長】

それでは、会議を進めてまいりたいと存じます。

開会にあたりまして、本検討会議の座長でございます公立ほこだて未来大学 特命教授 川嶋稔夫様よりご挨拶を頂戴したいと思います。

【川嶋座長】

皆様、こんばんは。外を見るとまだ太陽が沈んでいないくらい明るいということで、これまで3回の会議の開始の状況から考えると、夏が近付いてきているなという感じがすけども、前年度ですと令和5年度には先ほどお話がありましたように3回の委員会を開催することができました。お蔭様です、前回は非常にいい議論ができつつある、皆様からいろいろな意見をいただいたことで、どういう方向で考えていけばいいのかというのが話として見えつつあるような気がします。前回は、何名かの委員にはご意見をいただけないまま終わっていますので、そこから始まることになる訳ですけども、この会議は函館が持つ、博物館等が持つ文化財をどのようにこう将来に向けて活用していくか、歴史をどのように活用していくかというようなことで、非常に重要な意味を持っていると思いますので、続けて皆様のご協力をお願いしたいと思います。

【加藤歴史文化資源保存活用担当課長】

川嶋座長、ありがとうございました。

それでは、本日の委員の出席状況について、ご案内申し上げます。お手元の座席表に本日欠席されております委員の皆様、お示ししている5名の方が欠席されております。それに加えて本日急遽ご連絡いただきまして、2名の委員の方が欠席されております。函館市文化財保護審議会 会長の中村委員、そして株式会社ほこだて西部まちづく Re-Design 代表取締役の北山委員2名が本日欠席の申し出を頂戴しております。以上のことから、全委員26名中7名が欠席してございまして、本検討会議設置要綱の規定により委員の過半数の出席を満たしておりますことから、本会議が成立しておりますことをご報告させていただきます。

本日、協議・検討をいただきます議題につきましては、前回、令和5年度第3回会議より継続協議とされました意見に対する検討としてございまして、パブリックコメント

や各団体からの意見そして市内中学生・高校生を対象とした博物館アンケートにて、総論的なご意見や各論的な多岐にわたるご意見をはじめ、様々な意見をいただいた中で、相反する意見などもございましたことから、5館の統合に関しましては、賛成と反対の意見がそれぞれございます。第1回会議よりご案内申し上げておりますが、この部分の整理がつかなければ、具体的な整備内容の検討ができないと考えてございます。前回の会議では、座長より委員全員の皆様より、総論に係るご意見を伺うとして議事が進められました。残念ながら会場の時間の都合上で2名の出席委員の方々のご意見を伺うことが叶わなかったところでございました。

今回も引き続き委員の皆様より、5館の統合・分散に係ります総論の整理に資するご意見をはじめ、多様な意見を頂戴してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いを申し上げます。

それでは、川嶋座長、議事進行のほどよろしくお願いいたします。

【川嶋座長】

それでは、これから議事を進めたいと思います。今ご説明がありましたとおり前回の会議の時に出席されていた委員のうち、2名の方にはご意見を伺うことができなかったということで、その2名の方のご意見を伺うところから議事を再開したいと思います。

まず、すでに手元にマイクがあるようですけども、鈴木委員、お願いいたします。

【鈴木委員】

こんばんは。函館市文化団体協議会 会長の鈴木でございます。函館市文化団体協議会は、本年度創立60周年を迎えて、11月にいろんな事業を計画しておりますので、皆様のご協力とご参加をよろしくお願いいたします。

それでは、本事業についての私の私見ですけども、まずこの事業については取り組む時期も含めて大きく2本の柱があると思っています。

そのうちの1本は、やはり貴重な財産・資料の保存・保管、これが非常に今後、地震などの災害も含めていろいろな対策を講じなければならないことは、早急に行わなければならない。これは総合ミュージアムができるまでずっと先延ばしにするというのは非常に危険かなと思っています。また、それらのものを維持・保存していくためには、それなりの人材の確保ということも含めて、こちらの方は早急に取り組むべきではないか、そういう保存施設を先に建てるという方法もあるのかなと、予定される場所に。他の施設は後でもいい。早急に、これは行わなければならない。これはこの話が出てから30年も経っている話で、30年前から危機を感じているわけですから、こちらの方はまず1本目の柱として早急に行わなければならないと考えています。

もう1つの柱は、このような公共の施設を新たに作ろうとした時に、まず何が一番大切かと言うと、まず人が集まる施設を造る、これは大切なことだと思う。建てたはいいけど、誰も来ないようなそんな施設を造っても、本当に税金の無駄遣いと言われる。では、人が集まるために、文化施設いろいろあるのを1つにまとめたなら、人が集まってくるのではないかという考え方もこれはあるかと思っておりますけども、果たして本当にそうかなとも思います。前回の意見交換の中でも、現在使用されている貴重な文化施設を応

用して、利用しての施設がある訳ですから、それを全て1つに集めることはどうかということ、立地的な問題がありますので、まず博物館は函館公園内にあることは無理です、どこか候補地に建てる、そして立地的に離れている北洋資料館、今芸術ホールにある北洋資料館に関しては遠いので、これはやはり新しく設置した施設に移転すべきだろうと思っています。それ以外の施設については、ほぼ同じ地区にある訳ですから、私はこれらの施設を回って歩くという、そういう構想もあるかなと、従来通りにして。その代わり今造る施設を起点として動けるようなものを。例えば中学校や高校、小学校でもそうですけども、修学旅行や何かで来て、ここでいろんなものを、函館の歴史を勉強したいという話が来た場合には、そこにまずバスを停めて。ですから駐車場の広さというのは必須です。そこで見て、後はグループごとにいろんな施設を見て歩くと。で、また戻ってくると。というような構想ができるのではないかな。そうなれば駐車場というのは従来の2時間無料スペースではなくて、他の施設を回ったら3時間無料にするというような特典も、これは子どもたちだけではなくて、大人であっても、いろいろ見て回れますよというような、例えば特典をつけるなどの工夫をして、駐車場というのはどこでも非常に停まりにくい訳ですから、探しにくい訳ですから、そんなこともそういう拠点的なポジションにするのはいかがかなと思っています。じゃあ、その施設にどうやったら人が集まるのか、今言いましたように観光や学習、研修というものは当然考えられます。学習・研修に関しましては、外から集まってくる旅行の問題、旅行客ですね、そうやって集まって生徒さんが来る、それ以外にも研修施設を造るにあたって、そこでの会合ができるような施設を造るであるとか、そういうようなことも必要になってくるかと思う。あと、こういうお勉強の施設ですから、そういう人たちはばかりが対象かということ、僕はやはり今の時代は小学校就学前の幼児、こういう子たちが来て、ちゃんと遊べるスペースといえますか、そういう幼児スペースが必要であったり、当然高齢の方、そういう方々が来て楽しめるような、そういう施設を入れるべきだろうと、こう思います。

また、アンケートの中にもありましたように、やはり函館の新しい歴史の、今までの歴史も当然大切ですからいいですけども、新しい歴史、若者が興味を持つような、そういうテーマパークのような、そういうものが企画できるようなスペースが必要ではないか。何よりも人が集まってきた時に、絶対必要なのはフードコートですよ。ここは商業施設ではありませんから、フードコート造っても、土産だ何だといっぱいお店を入れる必要はないと思います。ただ、先ほどの修学旅行や研修旅行で来た時に、一番困るのは駐車スペースと昼食です。お昼ご飯。何十人、もしくは何百人がいる生徒を連れてきて、1つの食べる場所に連れていくなんていうことはなかなかできませんので、弁当かグループごとに勝手に食べてから戻ってこいというような形をとりますよね、私も40年くらい高校教員をやっていたので、そういうところでもありますけども。そこに行けば、例えばバス3台で来ましたと、そのバス3台にお弁当提供しますよというような施設、前もって注文すればいい訳ですから、数は。で、函館には何と言っても大変なランチメニューがあります。皆さんご存知のラッキーピエロのハンバーガー、それからハセガワストアの焼き鳥弁当。この2つはよく私の知り合いも函館に遊びに来ますけども、何か

義務のように函館に来たら食べなきゃダメなんだというようなことを言いながらよく食べられますし、店の前に多数並んでいるのを見ます。これらのものが、もし弁当として、値段もそんなに高くありません、普通に仕出し弁当頼んだら、飲み物付きで、安くても800円かかりますから、そのへんの経済的なことも含めて、それを注文できる支店、そこで受け止める。一般の方が来てもその2つ食べられるようになっていけば一番いいかもしれませんし、いや、函館だったら塩ラーメンもだろうと段々増えてしまうのもまた困りますけども、そのようなちょっとしたフードコート、施設、これは人が集まる施設にはもうフードがなければ今は人は集まりませんので、そういう施設も考えていかなければならない。なんだかんだ考えていくと、先ほども申し上げましたけども、5つの施設を1つにしようと思ったら巨大な建物になります。ですから、あの地域であるものは、3つはそのままにしておいて、博物館と北洋資料館だけはその施設に入ると、それ以外のスペースは人を集めるための、人が集まってくれる施設を造るためのスペースとして、これは私の全くの私見ですので、皆様の中からもっともったいいアイデアを得る可能性があると思いますけども、そのようなスペースに空けておくのがいいのではないかと。この施設はそれなりの、大変なお金がかかると思いますので、この施設によって函館市の活性化が図られるような、そういう大きな目標がある訳ですから、そのような形になるように、となると少し時間もかかりますので、先ほど申し上げましたようにこちらの方にはある程度の時間を必要とする。ある程度ですね。今までのように30年もかかったらまた困りますけども、ある程度の時間を見ながらそれを待ってられない保存・保管ということについては早急に対処する、対応するという2つの構えで時期的なものも目的も2つの柱で進めることはいかがでしょうかというのが私の意見です。以上です。

【川嶋座長】

はい、ありがとうございます。確認ですけども、財産の管理という点での資料の保全は急いでやってしまう。それともう1つ、人が集まる施設としての博物館、今のお話ですと北洋資料館を統合したようなものについては、どこか遠くないような場所に造って、それらを回れるような状況がいいじゃないかという、そういうことでよろしいでしょうか。

【鈴木委員】

はい。候補の中には元町近辺の土地も1つ候補にありましたよね。ですからそこであれば。非常に広く活用できる戸井方面の施設、土地を使ってというのも非常に面白い構想だとは思いますが、そこにどれだけの人が集まってくれるかということを考えて、立地的に広さはいいけども、位置的には厳しいなど。

【川嶋座長】

はい、分かりました。どうもありがとうございます。それから本日中村委員が欠席ということですが、何か中村委員の方からは。

【加藤歴史文化資源保存活用担当課長】

はい、庶務よりご説明させていただきます。函館市文化財保護審議会 会長 中村委員より本件に係わるメッセージ、意見を電子メールにてお預かりしております。もし、座長のお許しがいただければ、原文のままご披露させていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

【川嶋座長】

ぜひ、お願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

【加藤歴史文化資源保存活用担当課長】

はい、承知いたしました。それでは中村委員よりお預かりしておりますご意見について、ご披露させていただきます。原文のまま、そのとおりに読み上げます。よろしくお願いいたします。

函館市文化財保護審議会 会長 中村和之。

今後の博物館のあり方について、私は統合に向かうべきだと考えます。

函館市は、青柳町の本館のほかいくつかの分館を置いています。このような博物館の置き方をしているのは、かつては街中（まちなか）博物館という考え方があったからだと思われま。これは博物館を一つに集中させず、テーマごとに館を置くことによって、参観者の移動を促し、観光と学びを結びつけるという意図を持っていました。函館市の博物館・資料館の置き方はまさにこのような考え方を前提にしていると思います。

ただ北海道内の他の都市で、函館市と同じような方法をとっている市町村はありません。総合館的な博物館が1館あり、そのほかに美術館が1館あるかないかというのが一般的だと思います。網走市のモヨロ貝塚館のように、有名な史跡を現地で説明するために資料館を別に置いている例もありますが、これは一般的ではありません。

今後の人口減から予想される、税収減を考えると、私は今までのようにいくつもの博物館・資料館を維持して行くのは、難しいのではないかと思います。また、津波などの災害に対応する必要もあります。安全なところに総合博物館と収蔵庫を置き、現在の資料館などは順次統合していくことをお考えいただきたいと思います。

以上、原文のままです。以上です。

【川嶋座長】

はい、ありがとうございます。今、中村委員からのご意見が披露されましたけども、いろいろこの博物館の統合、あるいは分散した方がいいのかということについて、それぞれいろいろなお立場があるというふうに思います。今日は後で、それらの点について皆様の意見を改めて伺いながら、論点を整理していきたいというふうに思っております。

その前に、前回欠席された委員の方からもご意見をいただければというふうに思います。

函館商工会議所、谷口委員、いかがでしょうか。

【谷口委員】

商工会議所の谷口といいます。どうぞよろしくお願いいたします。業務の関係上、欠席がありまして、申し訳なく思っております。ただ、いただきました提言、たたき台、

それから会議録も読ませていただいておりますので、そのへんの理解はしているつもりであります。

まず最初に、この検討会議のテーマが非常に大きいなと思っております、会議録を見ましても委員の皆様がそれぞれの立場から様々な意見が出ておりますし、パブコメにおきましても市民だとか、老若男女に問わず、広範的な意見が寄せられていると思えました。

それらを踏まえて、クリアな1つの方向を導き出すというのは本当に大変な作業だなとは感じておりますが、私も皆様と一緒に委員を委嘱されました以上は、責任をもって協力はさせていただきたいなというふうに思います。

それで会議録も見まして、前回の施設見学を踏まえて、現時点でのそれぞれのお考えということで発言をされていると思っておりますが、私も現時点での私の思い、考えを述べさせていただきたいと思えます。

施設見学は、対象の5館、参加をさせていただきまして、改めて施設を見まして、施設の老朽化、著しいなということを感じますし、あと、やはり人の目に触れていない収蔵品も、価値のある収蔵品も多くあるということも踏まえまして、やはりそういう状況を踏まえますと新施設というのは期待されるどころだなとは考えております。

その際は、その施設の性格をどうする、役割をどういうふうに築けるとか、あるいは今ご意見のありました街歩きの観点ということも大切ですし、全部を統合するのがいいのか、いくつかの施設にするのかというのは、これからの議論になるのかなと思えます。

当然、市民は親しみやすい施設、現在の施設も一部の人を除いて何度も足を運ぶというような形ではないのかなと思えますので、そのへんリピーターとなるような施設も必要ですし、当然観光客も函館に来たらここに行きたいというような施設が必要なのだろうなと思えます。

あと、最後に統合するというようなことになると整備費も、それからその後のランニングコストも非常にやっぱり気になるところでありますので、そういうこともきちっと踏まえながら、コストといたしますか、考えは整理していくべきだなと思えます。

現時点ですので、抽象的な意見になるかと思えますが、現段階での私の意見は以上であります。

【川嶋座長】

はい、ありがとうございます。

続きまして、前回ご欠席の委員で函館市PTA連合会の駒野委員、いかがでしょうか。

【駒野委員】

函館市PTA連合会で会長をしております駒野と申します。前回は参加できず申し訳ございませんでした。

私も第2回目の施設見学をさせていただきましたけども、やはり皆さんおっしゃるように資源の問題、屋根裏にあるような感じがとても、すごく貴重な物まで風にあたって、先ほど鈴木先生がおっしゃいましたけども、早急に何とかしなければいけない問題なのかなと思っております。

また、洪水がもし来てしまった時にも浸水してしまうというお話も伺いましたので、そこに関してもやはり早急な対策というものは必要なのかなと思っております。

私自身も、総合ミュージアムに関しましては、賛成の1人ですけども、中でも今高校2年生の娘と中学校3年生の娘がおりますが、その2人の意見を聞いたところ、函館には商業施設が少ないということで、やはりフードコートですとか、そこで勉強できるようなスペースがあると非常にありがたいなという意見も、家庭のことで申し訳ないですけども、伺い知ることができました。

財源という点でも、問題になってくるのかなというふうに思っておりますが、個人的には大泉市長ががんばっていただいております、ふるさと納税なんかも少しずつちょっと期待しながら、財源確保ができればいいのかなというふうにして、漠然とですが思っております。

すみません、たたき台というか、意見の中には、稚拙な私の意見もたくさんありますが、このような感じで締めさせていただきたいと思います。どうもありがとうございます。

【川嶋座長】

はい、ありがとうございます。皆さんも見学の時にご覧になったとおり、いろいろ目に触れないところにたくさんの資料があって、それらがぜひ活用されるようになったら、函館にとって非常に有益だろうなというふうに思います。そういうところも踏まえて、先ほどから出ている資料の安全な確保とか、そういう優先すべき課題等も含めて、今日、議論していきたいと思います。

それから、今日、新委員として交代された佐竹委員、もしも引継ぎ等でご意見持っておられたら、ぜひここでご披露いただければと思います。

【佐竹委員】

函館市の文化・スポーツ振興財団ということで、皆様に見学していただいた時に、私昨年度は、北洋資料館に勤務しておりました。皆様に来ていただいた、見ていただきましたけども、その中でいきますと北洋資料館、それから文学館と、北方民族資料館、それぞれありますけども、3館とも置いてある資料というのは全く別個のものなんです、それを今でいくと北洋資料館は五稜郭地区、北方民族資料館と文学館は西部地区という形になっております。これを、まず場所の部分というのは昨年来議論されているところだと思いますけども、まず1点ここが非常に悩ましいところだなというふうに理解しております。

それから、先ほどから出ておりますが資料の保管、人の問題も出ていましたけども、これは出来てからのお話になるかと思いますが、今、非常にインバウンドの観光客が多く観覧に来ていただいておりますので、そこに対する資料を理解してもらうための掲示、それから同じように説明できる方、同様に学芸員として専門的な知識を身に付けていて、なおかつインバウンドへの対応もできる、こういった資質をお持ちの方にも入っていただく必要というのは、大事なのだろうなと思っております。

それから、中・高校生のアンケートというのがありましたけども、これからの世代を背負っていく子どもたちに対して、視覚の部分も含めたICTをしながらの資料の提示というものも、これからどんどん問われていくのだなということを思っています。以上2点ですけども。簡単ですけども。

【川嶋座長】

はい、どうもありがとうございます。これでですね、一通り皆様のご意見を伺ったことになる訳ですけども、前回の議論、それから今日伺った話を私の方で簡単に整理してみると、1つは建物自体に関するいろんな意見があったかと思いました。

展示環境の整備の問題ですとか、それから収蔵するキャパシティ、容量の問題ですね、それから一方で展示するスペースも全体として足りていないという話があったり、研修スペースが必要だというような意見も多くの方から寄せられたように思います。駐車場については言うまでもなく、全然足りないと、そういうようなのが建物、新設備を造るにあたっての意見として出てきたのですが、多分こういう問題と、建物自体の性質に関する問題と、もう1つは館自体を集約するのか、分散するのかということに関する点があったと思います。

恐らく、どなたかも仰ってたんですけども、新しいミュージアムを造るというようなことになれば、建物自体に関する問題というのは、その時点で十分に検討されるべきことで、ここではリストアップしておけば、基本的にはOKなのだろうなというふうに感じております。

一方、館を集約するか、分散しておくか、その度合いと言いますか、そのことについて、考えておくのはこの会議の場で進めなければ、その先に進めないだろうというふうに思いますので、これから先は各論の、一番最初の各論として、この館の集約・分散に係わる問題を皆さんと意見交換していきたいと思っております。

今日中にまとまった話になるのか、あるいはいくつかの方法が出て終わるのかということはありませんけども、皆さん、前回の議論に基づきまして、いくつかの論点から話をしていきたいと思っております。

私がちょっと整理してみたのでは、3つくらい論点を考えてみるのがいいかなと思っております。

1つは、これ何名かの委員から出てきましたけども、テーマがちょっと、分散していることによってテーマが細分化している、細分化したテーマによると、何というか全体的な迫りに欠けるのではないかなというような話が、前回の議論の中で大体3名の委員から出ていました。これは確かにある程度、全体的なものを見渡せないと、例えば総合ミュージアムというもの、博物館自体が函館をよりよく理解するためのものだとすると、テーマが分散していることによって、じゃあ北方民族資料館、それから文学館、北洋資料館を見て、それで函館全体、あと、博物館を見て、全部見ないと函館の全貌が分からないというのは確かに疑問としてありますので、この点、私の理解が正しいかどうか分からないですけども、皆さんと、今日そこについて話したい。

それから、2番目が先ほども出てきました、鈴木委員からもお話がありましたけれども、街歩きとの連携の仕方。確かに現状でその街歩きといろいろな文化施設というのと関係が深いと、これは博物館関連施設だけではなくて、旧英国領事館だとか、公会堂とかも含めて街歩きということですが、その中での博物館関連施設と言いますか、類似施設の位置づけですね、そういうようなこと、その維持、そういうようなものを2番目の議論としたいと思います。

3番目はですね、これは2名の委員から出てきましたけれども、やっぱりそれでも統合の難しい館が存在しているのではないかと。だから、最初から5館を1つにする、あるいはバラバラに置くとかという話ではなくて、その理想的な函館における博物館施設のまとめ方というか、そういうものがあるのかどうか。統合が難しい、独立してあった方がその性格としてはいいのではないかとというようなものがあるとすれば、それは何かというような点が前回の議論で出てきておりましたので、それを3番目の議論としたいと思います。

最初が、テーマの細分化によって、迫力・魅力が低下したりしているかどうかということがあるのだろうか、横串を刺して大きくしていくことによってパワーアップするのではないかと、そういうことに関する議論、それから2番目が街歩きとの関係、3番目が統合が難しい館があるだろうか、ないだろうか、そういうような議論をしていくと、我々がどういう方向に進むべきかというのが少し明らかになってくるかなというふうに思います。

それで、最初にテーマを細分化と、魅力の関係とかということ、この話をされていたのが、前回奥平委員ですが、そういう発言をされた委員から発言していただいて、それで、いや、そうではないというような議論を進めていきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

まず、奥平委員、お願いいたします。

【奥平委員】

これについてはですね、テーマの細分化が必要かどうかということですが、テーマ細分化したままで、今の館を残すのであれば、総合ミュージアムは必要ないということになりますよね、議論上で言うと。

ということは、このままの状態を残すということは、方向性としては考えるべきではないのではないか、ということになるのかなと思います。

じゃあ、まともに大きな総合博物館造れるのか、という問題が今度は出てくる訳ですが、先ほどから実はですね、貴重な財産、貴重な遺品とかは全て高台に上げるという話が出てきていたと思います。高台に上げるということは、坂の上に造るということなんです。坂の上に造るということは、見に来る人は少なくなるんですよ。この矛盾をどうやって解決するのかというふうになるんですよ。だから、いろんなものが今、実は、前回からの会議とかでも分かっていた部分ですが、そういうものを全て解決できるような場所が、果たしてあるのかどうか。また、それが西部地区にあるのか、というところをまず議論すべきなのかなということを感じています。

ですから、まずは、大きな博物館を造るというのは、実はこれは集客の点で言うことで、非常に大きなメリットがあります。また、そこに人が集まるということによって、西部地区にもし造ったとすれば、そこが人が集まる場所となって、さらにそこに人が住めるような場所になる可能性も秘めています。これは図書館がそういう機能を持っているということがもう既に論文とかで実証されていますので、博物館にもそのような機能は当然のようにあるものと考えべきだと思います。

ですから、そこまで踏み込んで考えるべきなのかということ、これから議論していかなくてはならないことを私からご提案したいなと思います。以上です。

【川嶋座長】

ありがとうございます。

今、最初に仰られたテーマの細分化のままということが結論であるとするならば、総合ミュージアムの話はそもそも必要ないだろう、現在、(仮称)総合ミュージアムですけども、そうすると残るのは博物館の環境の整備と、現在の博物館の環境の整備だけが残るのではないかと、そういうことですね。分かりました。

今の奥平委員の意見につきまして、何かコメント等がある委員があればお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

ではちょっと、他の方からも意見を伺ったうえで、議論を進めていきたいと思っています。

もう1人ですね、池田委員は今日はいらっしゃっていますか・・・。

【加藤歴史文化資源保存活用担当課長】

欠席されております。

【川嶋座長】

そうですね。池田委員、前回の議事録を私が確認したうえで、海外から来られた方が、函館のいろいろな博物館を見に行った際の印象として、そのスケール感で魅力に欠けているというようなことを仰っていたというふうに議事録の方には書かれておりました、それは多分奥平先生が仰っている小さなテーマであるために、そのスケール感、何と言うか非常に小さなテーマを扱っているというふうに受け止めているんだろうなというふうに思いました。それから、今日やはりご欠席の北山委員からも、函館の文化財の価値をより大きく出すためには、このテーマの細分化というのは適していないのではないかなという趣旨の発言があったというふうに記憶しております。

この点につきまして、何か意見をお持ちの委員の方はいらっしゃいませんか。

やはり、非常に大きなことだと思うんですね。総合ミュージアムにすることによる価値がどこにあるのかというところで、これが多分この話を進めていくうえで、非常に大きな前提かなというふうに思います。

【小山委員】

はい。

【川嶋座長】

はい、小山委員お願いいたします。

【小山委員】

統合にするのか、それとも分散型にするのかっていうのを決定するというのは、物凄く難しいことだと思います。それって言うのは、市の財政状況がどうなのかっていう説明もないし、場所はどこにするのかというその素案もないし、あるいは市の街づくりとの関係で西部地区をどんなふうにしていきたいのか、あるいはこの総合ミュージアムというのは、西部地区だけじゃなくて、市全体の街づくりとどう関わっていくのだろうかという、そのへんの関係も分からないままに、理想的な博物館はどういうものなのだろうということを議論している状況なものですから、これがいいっていうふうにはっきりと意見を言いつらいなっていうふうに思っています。

その中で、また私はある程度の統合施設というのは必要ではないかと思っています。

ただ、その後の空いてしまった施設をどう活用するのかっていう、そのあたりまで含めて構想ができていくと、西部地区の街づくりとの関係も納得できるのかなというふうに思っております。

今まではちょっと函館公園の中の博物館は閉じた博物館、市民にとっても観光客にとっても、あるいは学生さんたち、大学、高等教育関係ともあまり連携のない閉じた博物館だったのではないかなって思うんです。

そこを開かれた博物館にするっていう必要はすごく感じていて、そのためにはある程度の統合した、テーマを大きなものにした総合ミュージアムという構想は一定程度評価しているという現状です。以上です。

【川嶋座長】

はい、ありがとうございます。

具体的なことが、なかなか示されない中で議論していくというのは大変だということ、一方で逆に具体的な話を先に決めて、この場で決めるということも非常に、何と言いますか、こういう会議の性質上、難しいところがあるというのはご理解いただけるのではないかなと思います。

多分、漠然とした中で、それぞれがある程度、函館の状況を見ながら、現実的な統合の仕方はどうなのかということを探求していくぐらいしか方法はないだろうなというふうに思います。

ある程度の統合は必要で、空き施設の利用とかに関する目途とか、そういうのが重要だと、そういうご意見ですよね。

【小山委員】

そういうのを含めた検討をしていく必要があるのではないのかなと。

【川嶋座長】

多分、この会議の中で、そういうところ、空き施設等の利用については、どういうのが望ましいのではないかとということも、意見の中でどんどん出していったってですね、この会議で結論が出た際に、次の段階のところでぜひ活かしてもらおう。あるいは、その段階までいかなくても、積極的にやるべきようなことは政策の中に取り入れていただくような形が望ましいだろうなというふうに思います。

ありがとうございます。

ほか、ご意見、いかがでしょうか。

【鈴木委員】

はい。

【川嶋座長】

はい、鈴木委員、お願いいたします。

【鈴木委員】

総合ミュージアム構想というのは、これは必ず今挙げた施設を統合しなければならないという会議なのですか。

【川嶋座長】

いや、これはコンセンサスが取れるかどうかという会議です。

【鈴木委員】

少し、ある程度まとまるということに関しては、僕もそうした方が、先ほど言いましたように集客の点からも未定がある部分については、当然、だからこの話が起きているのだらうと思いますけども、全部が統合しなければならないという、それがまず大前提だという話ではない？

【川嶋座長】

ないです。

【鈴木委員】

と、思っていますし、あと先ほど保存の件ですけども、丘に造っては人が集まらないって言いましたけども、函館元町は高台の、そういうところですから、どこっていう、一応、今上がっていたのは元町近辺の場所というのは多少高いということですよ。ただ、津波の問題は非常に大きな問題がありますので、やはり津波は簡単に、来たらすぐ上がってしまうようなところは難しい、少し高くなるのは。それで人が集まらないかということ、今の函館の観光から言うとそんなことではない。函館山に登る訳じゃありませんから。ということだと思います。以上です。

【川嶋座長】

ほか、意見いかがでしょうか。

【村上委員】

あの、いいでしょうか。

【川嶋座長】

はい、村上委員お願いいたします。

【村上委員】

集約か分散かということと言うと、どういうふうにつけるのか、例えば3番の統合が難しいというのがどうしてもあるとか、そのへんはあると思いますし、その詳細についてはこれから決めていけばいいのかなと思いますけども、基本的にはやっぱり集約型のものを造る、べきなのかなというふうに思っています。いろんな理由があって、集客する面で言うと間違いなく、集約型いいと思っていて、私、長く近畿圏にいましたけども、琵琶湖博物館なんかは、あのへんの近畿圏の博物館の中では、ほぼ唯一補助金をもらわ

なくても黒字でやっていける博物館だと言われていて、物凄い集客が上手なところなんですね。そのやり方とか見ていると、水族館もあれば、歴史系、文科系の博物館もあるし、それこそ先ほどフードコートの話も出ていましたけども、食べるところもあるし、巨大な駐車場もあるしという形で、何もかもがいろいろ揃っている。京都にも近いとか、いろんないいポイントがあると思いますけど、そのへん非常に上手にやっているというのがあって、何でもかんでもあると中にどういう人がいるのかというのが結構見にくくはなりますけども、ただ、非常に成功しているなといつも思っていました。ああいうのを見るとやはり、博物館単独で見ると、小さいものがいっぱいあるんですよ、魅力的に見えるんですけど、いろんなジャンルの中で実は博物館を選んでもらわなくてはいけないということがあると、それこそインバウンドの話でも出ていましたけど、博物館というものの自体が、今の小さい状態だと観光客の目に入らないという状況になっているのではないかなということがあります。だから集約の方がいいかなという意見が1つ。

もう1点、私は以前学芸員をやっていたので、学芸員という視点から考えても、例えばいろんな企画展や特別展をやった時にも、収蔵資料いろいろ使いたいという時に、物があちこちに分散しているということ自体が結構実はやりづらい。博物館どこでもそうなんですけども、予算、非常に限られているので物を運ぶというのは結構お金がかかる。貴重な物が、普通に宅急便とかで運べないので。そのへんを考えると、やっぱり大きな博物館があって、そこにできるだけ、さっき収蔵施設は別にみたいな話もあったし、いろいろ考えられると思いますが、展示室と収蔵室と両方あるようなそういう統合的な博物館というのがあった方が、多分、中のスタッフとかもやりやすいのかなというふうに思います。

さらに言うと、学芸員にもやはり核になって、要は今みたいに交代で市役所の職員が学芸員になるような方式ではなくて、やっぱり学芸員として雇われて、その博物館を見ていくんだというようなハブになるようなそういう学芸員さんがいらっしゃるのか、そうでないのかというのは多分大きいと思うので、そういう人事のところまで、どこまで言えるのか分からないですけども、いてももらったら全然違うのにと思ったりもします。以上です。

【川嶋座長】

はい、ありがとうございます。

集客の点を考えると、集約型の方が見込めると。これは今まで前回お話に出てきた規模感と、それからその集客、迫力、そういうのとの関係かなと思います。

ちょっと私、個人的な意見を言わせていただきますと、函館の博物館というふうに言いながら、全館回って函館の全体像って分かるのかなと、ちょっと感じるがあります。多分、専門的な興味があれば、個々の館、いろいろな面白いことがありますけど、全体的に函館ってこんなところ、こんな歴史があったり、こんな地域なんだというのが今はどこにあるんだろうかというのが、なかなか難しい。

函館戦争は分かる、博物館の起源は分かる、それから函館の文学は分かる、アイヌを中心とする北方民族は分かる、それから北洋漁業のピークの時とか、漁法とかは分かる、

では函館ってどんなところというイメージはどこで私たちは得ているのだろうかというのはちょっと考えてみたい件だなと最近回って思っております。

ほか、ご意見いかがでしょうか。結構ここは重要なところだと思います。

【谷口委員】

はい。

【川嶋座長】

はい、谷口委員お願いします。

【谷口委員】

私もそう思うんですけども、単に集約か、分散かと言ったら、集約がいいだろうなどは思います。ただ、今の5館もそれぞれ役割をもって存在する、意義があつてあるとは思いますが。

函館のどこまでかどうかわかりませんが、函館の歴史を本当に理解するための全体的な5館のストーリーが今あまりないような気がして、今、座長が仰っていたようにそこに行けばそのものがわかりますけども、やっぱり全体で理解して深めるために総合的な施設があつて、それをもつとある部分の分野の理解を深化、深めていくには、例えば統合しない施設があるかどうか分かりませんが、そういう全体のストーリーがないと統合しても残してもどうかと思うので、そのへんは考えていくべきだろうなどは思います。

まず1番目は、最初にテーマとしました集約化、分散化というと、一定程度の中心的な役割を持ったコアな施設として、そういうものはまとまるべきではないのかなと思います。以上です。

【川嶋座長】

はい、ありがとうございます。

ほかにご意見ありませんか。

それではですね、高間委員、お願いいたします。

【高間委員】

はい、函館市小学校校長会を代表して来ているので、小学生が実際にそのミュージアムを使う場合に考えたら、前回もお話しましたが、実際に子どもが学校教育の中で、それぞれと歩き回るという機会は5年生の宿泊研修の時に西部地区を回る、これは今別にこの5館だから街歩きの1つになると言っても、最終的にいろいろ元町にはたくさんの観光資源ありますし、自分たちで歩きながら調べられるものがたくさんあるので、かえって大きいそういう器があると、そういう時に出口での充実した学習活動が成立するのかなと。

それから、他の学年で言うと、4年生になると郷土学習で、水と街づくりという教材があつて、笹流ダムとか堀川乗経の願乗寺川とか時任為基とか、様々そう言った先人の歴史、これはですね、どの館回っても子どもたち見つけられないと思うんですよね。小学校の社会科教師が教材開発して作ったものですけども。ただ、子どもの数、学習活動にリンクしたものという意味で言うと、この5館が1つになるうがなるまいが、そういう意味では子どもたちの学びは変わらないということで、小学生が今後利用していくに

あたって、3人以上で、4年生以上、3年生以上は自転車で校区外、公共施設に行けますので、そう言ったところ、夏休みの課題追及の場になるうえでは、1つ大きなミュージアムに行けば、友達の中で若干興味が違って、それぞれのコーナーに行くと、社会学習が順調に進むという意味では、1つにまとまっていると、安心の部分もあるというような。実際、小学生からアンケート取っていないので、何とも言えないですけども、そういったことを、学校現場としては感じました。

【川嶋座長】

前回の議事録の中に、何か小さなグループでこう、活動ができるような、そういう形があれば、教育の中で活かしやすい、グループ活動しやすいような博物館というのが、児童向けにはいいだろうというのは、そういう意見が書かれているんだなというふうに思います。

ありがとうございます。

一方、坂野委員、お願いいたします。高等学校ということで。

【坂野委員】

はい。高校生としては、なかなかこういう施設に学校単位で行くようなことは現状ではないのかなとは思いますが、子どもたちのアンケートや何かを見ても、学習スペースですか、こういうスペースがあったりカフェがあったり、そういうのは今どこの高校生もそういう場を望んでいるのは間違いないかなというふうに思います。

そういったものに、そういうスペースがあれば、そこで自習しながらまた、展示なんかでも興味を示す部分、当然あるのかなというふうには感じます。

私、工業高校なんですけども、工業高校の関係でいくと、建築とか建築科なんか古い建物をいろいろ街なかに調べに行くようなことがあるので、建物として古いものがどういう経緯があって残っているとか、そういう部分もあるので、集約をやっていった方向としても歴史的な建物に価値があるというのもあると思いますので、そういったものの保存ということも考えていく必要があるのかなと思いました。

【川嶋座長】

ちょっと今回の話とは、今回の議論とはちょっと、論点としては若干ずれますけども、いや、私が言いたいことがなんですけども、伝統的な建築物に関する情報というのが、博物館類似施設の中で提供されているかどうか、だから街で歩いて見ている分には見ることができるんですけども、そういう施設に関する情報というのは、ちょっと今、函館の街の中では、それを売りにしている割には欠けていると。一方で、函館市史の中にある都市・住文化編という、素晴らしいものがあって、そのへんとの繋がりというのは、この機会にいろいろ総合ミュージアムの中で、意見として出していくことができれば、そここのところというのは、函館の非常に大きな財産なので、それを活用する方法がこのミュージアムの議論の中で提案できればいいなというふうに思います。今、ちょうど委員のお話を伺っていて、ちょっと思い出したところです。ありがとうございます。

ほか、いかがでしょう。

ちょっと、時間もゆっくりやっていたので、申し訳ないですけども、皆さんの大体の意見としては、ある程度の統合というのは必要なのかな。ただ、その度合いはやはり内容を見てということでもあるし、後は奥平委員が仰ったように、やはり総合ミュージアムという、この建物を新しく造る前提の話としては、総合ミュージアムにふさわしい何かは必要なのだろうなという、部分的な統合だったとしても、そこは言えるように考える必要はあるんだろうなというのが、今思っている印象です。

ちょっと時間のこともありますので、2番目の話、もう既にいくらか出てきていますが、街歩きとの連携の仕方ですね、これはもしかすると、先ほどの建物の話とも関係してくるのかもしれませんが、このへんは根本委員、いかがでしょうか。

【根本委員】

ちょっとその前にいいですか。僕がこの会議始まる前にどちらが妥当性があるのかなということを考えていたんですけども、皆さんの意見聞くと、言いつらくなつたというのがありますけども、3つの観点で集約型というのを考えていました。

1つはですね、客観的なデータですけども、日本政策投資銀行というのが、公共施設に関する住民意識調査、ちょっと古いですけども平成27年度でその回答者の8割の住民が地方自治体の財政が厳しさを増していることを認識し、公共施設の老朽化に伴う、見直しに賛成し、建て替えの際に際しては費用縮減をした複合化が望ましいと答えているというのが1つのデータとして、先ほどコスト論の、つまり造った後の維持の問題とかを含めた時に、そういう住民というか、一般市民の人の考え方があるというのが1つ。

もう1つ、すごく博物館として大事なことだと思いますけども、博物館法による単なる見学施設ではなく、基幹としての博物館の機能性を考慮することが大切じゃないかなと思います。つまり、どういうことかと言うと、簡単に言うと、専門家というか、学芸員がいない訳です、今のいろんな施設で。そこはやっぱり基幹としての博物館というのをすごく大事にしたいというのが2つ目です。

3つ目ですけど、これ一番、僕、個人的に大事だなという、今まで函館市史とかの仕事をしてきて、皆さん時間があれば、若い時に書いた複合施設の展望みたいな論文を書きましたので、それ読んでいただければ分かりますけども、すごく、国立、県立、市町村立というのはみんな同じ理念で作られてきた。何でそうなのかなと、僕は個人的に疑問に思っていました。つまり国立の場合できることと、市町村立ができることって、全然違う訳です。予算的にも、人間的にも。学問的にも。ところが、大学がそうですけども、学際、こう何と言うか、中央の学問の方がそのままで地方に降りてくる訳ですね、歴史、歴史、歴史。でも、地方の時に、じゃあ歴史と地理といろんなものが合わさって、地域学というのを撒いてきたというか、そういう考え方もあるよね、となった訳ですよ。

といった時に、地方の博物館考える時に、歴史的な見方、全部分断して施設を造っていくというのも1つの考え方ですけども、それが今、文学館とか、北方民族とかある訳ですね。でも、アイヌのことを考える時に、歴史的な背景とか、いろんなものを抜きにしては考えられない訳です。現代的な問題としてのアイヌもあるし、あるいは石川啄木

を文学だけでとらえていいのかな。僕なんか文学館のある時期にプレゼンしたことがあって、やはり啄木を勉強すると、すごくいろんなことが、面白いことが分かってくる訳です。

そういうところが、地方博物館のいいところじゃないかなって思っています。ですから、学問の分野で分けるのではなくて、総合化して地域としての形を産んでいく、そういういいチャンスじゃないかなって思っています。単純にコスト論じゃなくて。それが1つ。

と、ついでに、先ほどの建築のことで、座長が話していたので、僕もそう思っている。すごく函館が、何が最初に僕が来た時に面白いかと言ったら、景観というか、街並みだったので、ですから、僕、景観審議会の時にいた時にお願いしたのは、都市建にもいいし、その学芸員というか、建築士の学芸員を採用してほしいということはずっと言っていたんです。つまり博物館の学芸員と都市建の景観の仕事が兼務でもいいじゃないか。そういう人たちが西部地区を造っていくということが非常に大事だ。そういう一筋の実績が、研究が、博物館の中で中核を占めるというのは、函館市の地域を考える時に当然、そうなるんじゃないかなと思うんですけど、それもなかなか叶えられていないというか、だから自分たちの資源というものを、地域性を出すとき、そういうことを強く意識しないと、全く同じ博物館になってしまう。そこらへんは今まで経験したことだから、強く皆さんに訴えたいなというところですよ。

で、与えられた街歩きに関しては、このたたき台の中でも、街ガイドとか、いろんな人たちとの関係性を唱えていますので、それもすごく重要だと思います。つまり、簡単に言うと、博物館の中で終わるのではなくて、体験型が今、インバウンドでも何でもそうですけども、街の中に博物館があるということなので、西部地区はまさに、西部地区自体が、エコミュージアムというとらえ方は前からされていると思うんですね。そういう中での、街歩きとの関係というのは、自ずとそういうプログラムを市民のガイドさんたちと作り上げるということの可能性も、もっともっと、多分奥平先生なんかは一生懸命やられていますけども、そういうことのソフト開発というのはこれからいくらかでも可能性があるのではないかなというふうに思っています。ちょっと座長の意図に合っているかどうか、分かりませんが。

【川嶋座長】

はい、そうですね、ちょっとあれですけども、ありがとうございます。

今、お話が出てきた課題の中にはですね、これ多分、函館市役所のいろいろな人事制度といいますか、採用制度の問題も関わってきますので、これらの点については、今回事務局の方々の方でも、ちょっと心に留めて。かつての採用制度と現在で大分変わってきている、いろいろな事情があったのだらうとは思いますが、その専門職としての学芸員ということについて意見があったということは、これ、事務局の方でも受け止めていただくと非常にありがたいと思います。それが最終的には文化財の活用に繋がっていくような、そういうものである可能性が非常に高いだろうなというふうに思います。この議論をまとめていく中でも、そういうことを反映していければと思います。

ほか、いかがでしょうか。

小山委員、いかがでしょう、この街歩きという点ではの話ですけども。

【小山委員】

私は、博物館を起点として、街歩きをして博物館でもいいですし、博物館から街歩きでもいいですけども、それってすごく重要だなと思うんです。特に学生さんたちが、学ぶ場所が、学習スペースがほしいという話がありましたけど、そこで受験勉強するだけじゃなくて、そこで本当に函館の街の面白さだったり、歴史の面白さだったりというのを学んで、学芸員さんや、あるいは大学機関なんかと一緒に発信するみたいな、何かもっと動きのある博物館にすると、そうするとまたそこから学んだものを検証するために街歩きをしたり、研究をするために街を見直したりっていう、そういう好循環が生まれるんじゃないのかなといふうに思っています。

【川嶋座長】

基本として大事なものは、その街歩きの起点とか終点として、博物館があるということが重要だろうという思いですね。

【小山委員】

はい。

【川嶋座長】

ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。

【村上委員】

質問ですけど、今ある小さい博物館、全部巡ったら何円みたいなチケットというのは、あるんですか。

【熊谷博物館長】

ないです。

【村上委員】

それは何故ですか。何故ですかって、変ですけど、要はそういうチケットがあることによって、全部制覇しようとか、そういうのが出てくるし、手間も省けるし。

【川嶋座長】

現状ある3館チケットというのは、入っているのは、北方民族？郷土資料館も入っていますか？

【熊谷博物館長】

北方だけですね。

【川嶋座長】

北方と文学館と・・・。

【熊谷博物館長】

あと、公会堂と、イギリス領事館。

【川嶋座長】

これは何か連携したチケットがあるんですか。

【熊谷博物館長】

4館入っています。

【川嶋座長】

4館と言っても、実質、その中で今回議論になっているのは2館だけ……。

【熊谷博物館長】

財団だからですね、経営母体が違う。

【村上委員】

ああ、そういう壁がある。それが全部統一した何かがあると全然違うのかなと思いましたので。

【川嶋座長】

今回、議論の中で、そういうようなものについても提案していくのは、ありなんじゃないでしょうか。

ほか、いかがでしょうか。

ちょっと時間のこともありますので、3番目の話、結構具体的な話になりますけども、統合の難しい感、これは前回の中では、統合するよりは別の場所に統合した方がいいだろう、そういう話が出ていたと思います。例えば、文学館に関しては、そのうちのいくつかの資料を、中央図書館の方に統合していった方が、中央図書館に併設するような形にした方がいいんじゃないか、ただ、現実的には照明の条件とか、そういうことがあるので、難しい点が多いというようなのはありました。それは渡邊委員かな。

それから、酒井委員からは北洋資料館に関して、これは関連する函館の施設に統合していくという道もあるのではないかという、そういう意見を出していただいたように思いますけども、まず、渡邊委員の方から、例えば文学館のあり方について、ご意見いただけるとありがたいです。

【渡邊委員】

文学館は、啄木の原本を展示しているんですけど、年に2回、展示替えごとに、それを運んでいかないといけない。そうしますと、やはり交通とか、あと、運ぶのが職員ですから、そういうちょっと心配な面がいろいろありまして。それぐらいだったら、図書館の中で原本を展示して、閲覧を、原本の閲覧はできないですけど、コピーの閲覧とか、研究とかはできる。そういう1本化した方がいいのではないかと考えています。ただ、太陽光線とか当たるような設備は困って、そういう光の入らないような場所をどこか考えてほしいと思っています。

【川嶋座長】

文学館で、もう1つ資料としてあるのは、梁川剛一のものがあると思いますけど、それらについてはどうしようにするのが理想的だと思いますか。

【渡邊委員】

今のところは、文学館のテーマとはちょっと違ってくるので、これは本館の方とか、別なところで展示した方がいいのではないでしょうとか思います。

【川嶋座長】

例えば、美術資料として扱うとか、そういう方向性でしょうか。

【渡邊委員】

今のまま使っていくとしたら、いろんな展示できますし、ちょっと色合いが違うというふうに思います。

【川嶋座長】

啄木会の方から現在は中央図書館に対する寄託という形をとっているんですね。ですから啄木会のものであるけども、管理等は中央図書館の方でやっているというような、そういう状態な資料となっております。

それから、酒井委員からは北洋資料館のあり方について、前回ご意見をいただきましたけど、改めてご説明いただければと思います。

【酒井委員】

いや、北洋資料館のほかにも何かね、海洋関係の記念館、資料館があると聞いたものですから、詳しくは分からないですけども、函館市が国際海洋観光都市ですか？海洋と標榜している訳ですから。それはそれでまとめてもいいのではないかと、ただの1つの案として。

【川嶋座長】

今のお話について、ちょっと事務局の方から補足の説明はできないでしょうか。函館市内にある海洋関係の関連施設の延長ですね。

【熊谷博物館長】

現在の状況から申し上げますと、北大の水産学部にある博物館、あと、展示施設ではないですけども、研究施設としてとらえた場合に、函館市国際水産・海洋総合研究センター、その2つということになると思います。

【川嶋座長】

そういうようなところにあるべきような資料なのかどうかというのは、1つ検討してもいいかなというふうに思います。もちろん総合博物館の中で、函館の関連資料として置くことも可能だと思いますけども。そういうような2つ、あるいは3つくらいの道が考えられるようなものであるということですね。

前回、統合が難しい館があるのではないかとというのは、ほかにも田原委員の方から、全部の統合は難しいのではないかとという意見があったように思いますが、ほか、ご意見のいかがでしょうか。

林原委員、いかがでしょうか。

【林原委員】

ちょっと議論戻ってしまうかもしれませんが、収蔵の件がありましたけども、展示しているものが、もし津波とか災害があった時に、啄木資料の原本という話ありましたけども、唯一無二のものであれば、やはり場所を移さざるを得ないのかなと。例えば、縄文のカックウのようにレプリカがあって、普段レプリカを展示していて、原本は別なところ、もっと安全なところにあるとかという、そういうやり方であれば、津波が来るところに展示をしても構わないとは思いますが、それが失われてしまったら唯一

無二で、取り返しがつかないものであれば、それはどこか別のところで収蔵するか、あるいは展示をするかというところが必然なのかなというふうにまずは思っております。

【川嶋座長】

いろいろな方からの資料の安全確保、災害に対する対策等の意見は出ていますので、これはもうこの委員会の結論を待つまでもなく、早急に対策を考えていただいております方がいいのではないかと思います。特に北方民族資料館の資料に関しては、おそらく水没したら、その価値は膨大なものになるだろうというふうに思いますので、損失が膨大なものになると思いますので、やはりそういう災害に対する対策というのは、何事もないうちにやっつけてしまわなければ、何か起きてからでは、もう取り返しがつかないですし、これについてはご検討いただいております方がいいというふうに思います。

それからですね、統合が難しい館、あるいは街歩きに関しまして、どちらもなのか、太田委員、いかがでしょうか。

【太田委員】

それでは、統合が難しい館についてですけども、置くべき場所は検討されるべきかなと思いつつも、私、最近、個人的にですが、東京の博物館などを見に行きますと、学問で分かれている展示というよりは、学際的な展示の方が流行っているというか、例えば和食に関して、理学的なところとか、文化のところとか、地方ではどうなっているかなど、そういった多岐に渡った展覧会の方が一般的になりつつあるのかなと思っておりますので、幅広い分野を持った館ができればなと思っております。展覧会にも反映していただきたいなと思っております。

【川嶋座長】

はい、ありがとうございます。学際的というのは、恐らく函館の場合も掘り下げていくと、十分そういう視点から展示ができるような、そういう材料を持っているところだと思っております。いろいろな面ですけども、江戸時代の終わりから明治・大正にかけて日本人が何をしようとしてきたかというようなことが、いろんな時代にいろいろな観点から見られる場所というのは、そうそうないのではないかなと思います。江戸時代の終結というか、残りみたいなものが終わった場所と、開港した場所が同じところであるというのも、よく考えてみれば偶然かもしれないという気もするんですよ。そういう点で非常に面白い点ですけども、何かそれぞれ、それぞれという感じが、やはりちょっと今の館の状況ということなんだろうなと感じました。学際的というのは、非常に重要な視点で、函館らしい意見だなというふうに思いました。

山田委員、いかがでしょう。

【山田委員】

今日の会議があるということで、昨日復習のために読み返しをしておりました。1つの博物館になることによって、例えば中学生・高校生から出ている学習する、いわゆる机というかそういう場所がほしいとか、ゆっくり読書する場所がほしいとかいうふうな、今の中央図書館的なことを考えているのではないかなというふうな要望がありました。高齢者だとか障がい者なんかについては、いろいろと配慮しなければならないところが

あるということも書いてありましたけど、具体的にどうなのかということと、いろんな方からいろんな意見が出ていまして、これを全部取り上げるとなると大変なことだということ、昨日考えていた訳です。私はですね、最初の提案にあるように、5つの博物館、資料館を1つにすることによって、中学・高校生の希望なんかもフードコーナーなんかも入れながらですね、満たしていくことができるし、あるいはいろいろと展示を変えてですね、やることもできるのではないかと、1年間同じものではなくてというふうにも思っておりました。

ただ、市議会の総務常任委員会の報告がありますね。あの中にはですね、博物館本館と5館の統合については、財政的な視点や、入館の数の推移などを含めて様々な角度から議論を重ねていかなければならないのではないかと、検証していただきたいというふうなことが出ていますし、1人1人の発言というよりも市議会の議員の総務委員会の動きなんですよ。これなんかもよく検討してもらわなければならないのではないかと感じていました。私自身は、いわゆる1つにまとめて、内容を充実して、年寄りが一服するためにですね、中庭に出てきて、ベンチに座ってというふうなことなんかも必要でないかと。中学生・高校生のためにも、いろいろ希望が出ているのを満たしてやる必要があるかというふうに思います。以上です。

【川嶋座長】

はい、ありがとうございます。

もちろん、机を貸すだけの博物館であっては、やはり目的が違うので、そのところは十分注意していかなければいけない。先ほど、小山委員からもお話があったように、資料が勉強の中に生きるような、そういうスペースであってほしいというのは皆さんの願いなのではないかなと思います。

佐藤秀臣委員、ちょっとお願いしたいところは、特にこの街歩きですとか、そういうことが、統合の中では、意見として議論される場所なんですけども、お立場からどのようなところがあれば、この複数の館と、街歩きの関係というのをとらえることができるのか、そのへんをちょっと伺いたいと思います。

【佐藤秀臣委員】

はい。実はこの時期というのは、大小合わせていろんな団体が総会などを行っている時期なんですよ。そういうところに招かれていくと、結構、この総合ミュージアムの話もするんです。今こういう形で検討しているんだよということを簡単に話をすると、いつ、どこにできるの？というのが多くの人達が興味をもって聞いてくるんですよ。その中で、私、障がい分野が多いものですから、やっぱり広いところで点在している施設を見に行く、歩くということについては、かなり難しいだろうと。今の元町区域にある施設、3館と言われてはいますが、そこについて、その地域についてはいろいろ散策をしながらという話をすると、なかなか難しいものがあるのではないかと気がするんですよ。実は、私、障がいを持っている人たち10人くらいと今度の日曜日にウポポイに行ってくるんです。ウポポイというのは非常に敷地が広くてですね、1つの建物から次の建物に移動するというのは結構時間がかかるということで、車椅子なんかも電動の車椅子の

方がいいんじゃないかという、そういう話が出るくらい移動が大変なんですよね。私はそういったことを考えると、むしろ1つの建物にというふうに集約した方が多くの人たちが、集まりやすいだろうと思っているんですね。私はぜひ、函館に行ったらここに行きたい、そういう思いが出るような、そういう施設にしてほしいなというふうに思うんですけども、私、札幌とか旭川に行くと、ほぼほぼ道立の美術館に行くんですね。青森県にも県立の美術館が青森市内にあるんですけど、そこに行ってますね、大きな犬がいて、いるというか作り物ですけど、あおもり犬という名前がついているんですけど、そういったことなんかも聞いても大したことはないけども、やっぱり何となく青森県民は自分たちがこういうものを作ったんだよみたいな、そういった意気込みを感じるとか、そういったことも含めてですね、1つの建物の中でいろんなものが見られるような、そういうものがあると、多くの人達が集まりやすくなるんじゃないかなと、そんな気がします。以上です。

【川嶋座長】

関係団体の意見としては、そういうところは当然出てくるんだろうなと思います。多分、それと併せて、じゃあ、街歩きというのはどうなんだというのは、その博物館だけの話ではなくて、考えていくべきところだろうなということですね。函館の場合、坂道が多いということがネックになっていますし、それだけじゃなくて、函館の歩道を車椅子で移動しようとしたら、かなり大変なんじゃないかなというのは常に感じる場所です。この辺はちょっと別な問題としても考えていただく必要があるかなと思います。

続きまして、黒島委員、いかがでしょうか。

【黒島委員】

街歩きということに関してですが、いろいろ考えていたんですけど、総合ミュージアムを大きくしていく、大きすぎると今までの博物館に行く人たちが少なくなって、潰れてしまうのかなって。あの博物館たち、昔の銀行とか市場を再利用して建てているじゃないですか。その趣きというか、函館らしい小さな博物館という感じで、感じがして、すごく何というか、この空間いいなと僕が思えたので、あそこが潰れてしまう総合すぎるミュージアムというのはちょっと嫌だなと思うんですよね。西部地区に大きなミュージアムを建てたりすると、街並みの風景とかが崩れてしまうのではないのかなって思って聞いていたんですけど、そもそも立地の問題もありますし、ちょっと難しい、お金のにも難しい問題なのかなと思っていて。先ほど函館に来る理由、ラッキーピエロとか、そういうフードコートの観点におきましても、結構立地が広いところにそれらを置いたら人は来てくれるのかなと僕は思っています。

【川嶋座長】

はい、ありがとうございます。

佐藤安浩委員、お願いいたします。

【佐藤安浩委員】

はい。前回もちょっとお話したかもしれないですけど、今この博物館に、私、博物館、縄文センターの担当をしていますので、そういう意味では博物館に来る方の話をよく聞

くんですけど、何を望んでいるのか、何のために来ているかということをいろいろ聞きますと、やっぱり体験型の学習というのでしょうか、そういうようなものが望まれてきているということが結構あるんですね。

そういう子どもたちのこれからの探求的な学習でしたか、ということが、文科省から出ている、学習指導要領に出ているということで、そういうことから考えると、函館のことはどこに行けば勉強できるのか、先ほど座長言われたように、函館のことは、例えば函館の何を知りたいの？というよりも、函館の歴史を知りたいのにはどこに行けばいいの？となった時に、この1か所に行くのと全てできる、あなた方が知りたいことは全て分かるというようなことが非常に求められるのではないかと。そこで学ぶことによって、その街歩きに繋がるですとか、そういうことが考えられるのかな。ということは起点になる施設というのは、必要ではないのかなと。結構、街の中にあると、距離が離れているし、バスを使って、何使ってとなるとやっぱり時間もかかるということを考えると、起点があるのはすごくいいのではないのかなというように思っております。

後は、文化財の保存・活用ということを考えれば、今の施設が保存に適しているのかということは、見ても分かるとおりに思いますので、やっぱりそういう意味では展示をするにしても、温度・湿度の管理をするにしても、うちの施設もそうですけど、新しい施設に敵わないわけですから、ずっと保存していくためにも必要なのかなというふうには思っております。

【川嶋座長】

はい、ありがとうございます。

函館のことを知りたいと思った時に、例えば知り合いが函館に初めて来たという時に、ここに行って何か自分で説明したというような博物館だといいですよね。そうすると、ここ見たら、函館の人が何食べているのかも分かっちゃうよというくらいの、そういうところだと函館らしいかなというふうに思います。もちろん、そういう情報というのは、今のところ、あんまりどこかがまとめている訳でもないし、果たして博物館がまとめるべきかどうか分からないですけど、そういうような函館の顔というか、物で作られたパンフレットみたいな、そういうような施設になると総合ミュージアムらしいかなというようなイメージを持ちます。

一方で、黒島委員、仰られていたようにやっぱり建物はいいよというのは確かにあってですね、私、あの台湾の博物館に行ったんですよ。ちょっと台湾の博物館は、日本の勸業銀行の建物を古生物の展示に使っていると。だから、そういう多分、古生物はそこじゃないと展示できなかつたくらい、大きかったのかもしれない。天井が高いというのがすごく有利だったのかもしれないですけど、そういう工夫の仕様は多分よく考えてみると何かあるのかもしれない。建物の特徴を生かした何かがあるのかもしれないというのは印象として持っています。

さて、今日、全体として皆さんの意見を伺ってきたんですが、ものすごく皆さんの意見が違うという感じでもないなという印象です。

皆さん、いかがでしょうか。

(頷く声あり)

ですから、多分、今日出てきた意見を元にしながら、どういうところが、どういう範囲が、現実的に函館にふさわしいものなのかというのを、多分時間がもうあと5分で終わりですので、今日結論という訳にはいかないですが、ほぼ皆さんの意見については、大体、伺っていて範囲というのが見えてきたような気がしますので、次回の前半にでも、この集約、あるいは分散の具体的な形態について、まとめていければなというふうに思います。

ということによろしいでしょうか。

はい。ありがとうございます。

それでは、この議題につきましては、次回の継続協議ということで、皆さんの時間をたくさんとってしまって申し訳ないですけども、これで本日の議事については終わりたいと思います。

庶務の方に進行をお返しいたします。

4 その他

【歴史文化資源保存活用担当課長】

川嶋座長、皆様、大変お疲れ様でございました。

ありがとうございます。

これにて令和6年度の第1回目会議の日程はすべて終了いたしました。

今回も貴重なご意見等々をいただき、誠にありがとうございます。

30年前からの議論が進んできた中で、皆さん、これまで函館が持つ貴重な資源について、そしてその歴史環境といった中で、貴重な意見が交換されて、非常に市民コンセンサスが図られるような検討会議が進んでいるということで、我々庶務といたしまして非常に感謝申し上げるところでございます。

また、先ほど座長からもお話があったとおり、今回も継続協議ということで、第2回に向けて進めていくということを確認されて本日は終了ということになるかと存じます。

次回についてなんですけども、次回の令和6年度第2回に会議につきましては、6月の28日、金曜日に同じく18時30分よりこの会場で開催を調整させていただければと考えてございます。調整がつき次第、また改めまして、早目のご案内をさせていただきますけども、原則、変更が生じないような形での準備を進めたいなというふうに思っていますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

最後に皆様の方から何かございませんでしょうか。

ございませんようですので、最後に川嶋座長より、一言またいただけますでしょうか。

【川嶋座長】

はい。本日もこの議論に参加していただきまして、本当に感謝しております。

とてもいい議論ができているなというふうに思います。

皆さんがどういうふうに考えられているか、何を求めているかというのが、お互い話をしていく中で、合う方向に向かってきているのかなというふうに感じております。

なかなか私の方も司会が上手にできないものですから、申し訳ないですけども、また次回、よろしく願いしたいと思います。ありがとうございます。

【加藤歴史文化資源保存活用担当課長】

はい、川嶋座長、ありがとうございました
それでは、以上で本日の検討会議を終了いたします。
本日は誠にありがとうございました。